令和５年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題
（現職教員、学部直進者等選抜前期募集）

「小論文」　高度教職実践専攻 高度教職実践専修

次の問題に答えなさい。なお、試験終了後、解答用紙（２枚）のみを提出すること。

問 題

平成 28 年 12 月、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が成立し、不登校児童生徒等の教育機会の確保、社会的自立を目指した支援策の更なる拡充、個に応じた支援のより一層の推進という方向性が示され、様々な取組がなされてきた。しかし、不登校児童生徒は依然として増加を続けている。令和２年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、小・中・高等学校等における不登校児童生徒数は 239,178 人であり、過去最多となっている。

不登校児童生徒に対する支援について、文部科学省は「不登校児童生徒への支援に関する最終報告」（平成 28 年 7 月 29 日文部科学省不登校に関する調査研究協力者会議）や長年にわたる不登校施策に関する通知内容を改めて整理した「不登校児童生徒への支援の在り方について」（令和元年 10 月 25 日元文科初第 698 号）等を周知し、施策の推進を図ってきたところである。しかし、昨今の新型コロナウイルス感染症による人々の意識や生活様式の変化、子供たちの教育の在り方や学び方への影響、ＧＩＧＡスクール構想による一人一台端末などのＩＣＴ環境の整備をはじめとするＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）推進など、従来とは異なる状況が教育現場等を取り巻く中、不登校児童生徒への支援の在り方についても、これまでの施策を礎にしつつも、新たに付加すべき視点がないかを今一度検討し、優先的・重点的に実施すべき方策を整理することが求められている。

このようなことを踏まえ、「不登校」という事象に対して学校はどのようなことができるか、初めに「不登校」に対する基本的な考え方について述べるとともに、今後の不登校児童生徒への学習機会や支援の在り方についての以下の４つの観点から２つを選んで、不登校児童生徒への新たな観点での支援の在り方を取り入れた学校等の取組例について、あなたの考えを 1200 字以上 1500 字以内で記述しなさい。

【観点】　①誰一人取り残されない学校づくり
②困難を抱える児童生徒に対する支援ニーズの早期把握
③不登校児童生徒の多様な教育機会の確保
④不登校児童生徒の社会的自立を目指した中長期的支援

（配点：200 点）

令和5年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験解答用紙
（現職教員、学部直進者等選抜前期募集）

「小論文」（1／2）

高度教職実践専攻　高度教職実践専修	得点　　点
受験番号（　　）	

10　20　30

10行

20行

25行

「小論文」（2／2）

高度教職実践専攻 高度教職実践専修	得点　　点
受験番号(　　)	

10　20　30

30行

40行
1200字

50行
1500字